

# 一般質問発言通告書

発言順位 3番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 5年 6月 6日

三島市議会議長 藤江 康儀 様

三島市議会議員 11 番 古長谷 稔

質問事項 1	共助の強化など三島市の防災対策の現状と今後について
具体的内容	約3年間続いたコロナ禍で、三島市においても地域の人々のつながりが、これまで以上に薄れてしまった。普段暮らすだけであれば、人とつながらずとも暮らしていくことはできる時代。しかし自然の脅威の前には、人がつながって力を合わせなければ対応できない、と考える人は多い。コロナ禍も比較的落ち着いてきた今、防災をきっかけにすれば、地域のつながりを再構築しやすいと考える。水害時、地震時、それぞれ備えは異なるが、地域の人々がお互いに輪を掛け合っつながることで、災害への対応力が増すのはもちろんのこと、高齢世代にとっても、子育て世代にとっても、安心して暮らせる地域を作り出すことになる。自助、共助、公助のうち、共助の部分で地域差が出ることは、過去の災害からも明らか。共助を強化する方向性として、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方に基づく自主防災活動の強化と、「自宅での避難生活」に向けた準備の強化が大切と考える。個人的には、自主防災活動の強化を突き詰めていけば、三島は防災日本一と呼ばれる市になり得ると考える。以下、三島市としてどのように取り組む考えか、現状の認識と今後の方向性を伺う。
1	共助を強化する方向性について
(1)	初動を握る自主防災会単位の災害対策本部（自主防災本部）の立ち上げと、初期消火や救出救助など班別の自主防災活動の実施に向けた訓練の必要性の認識について
(2)	各自治会がつくる「地区防災計画」の現状と今後
(3)	自治会放送機材（防災無線）の災害時（停電時）の活用
(4)	令和6年度で終了とされている「わが家の専門家診断事業」や、「TOUKAI-0」など耐震補強、耐震シェルター施策等の現状と今後
(5)	大規模地震時の自宅での避難生活を想定した「し尿」の燃えるゴミとしての処理、災害廃棄物仮置き場の設置など、災害廃棄物処理計画について
(6)	自主防災組織活動状況アンケート調査の結果を踏まえると、人材育成という視点から、出前講座や訓練指導などを市に依頼したいというニーズが高いことに対してはどうか。
2	三島市に関係する水害を防ぐための排水施設・設備の能力と被害想定について
(1)	三島市に関係する国、県、市が有する排水施設・設備の能力の現状と課題、災害時に市の災害対策本部では、市内の排水状況の全容が把握できているのか。
(2)	5月25日発表の境川排水機場のポンプ不具合から見える今後の対策
(3)	狩野川放水路の現状と今後について
(4)	田んぼダムの展望
(5)	排水施設・設備の存在と、ハザードマップ（浸水被害想定演算結果）の関係